



歙討東錦繪

十三

~ 13
4055
6



門 へ 13
號 4055
卷 6

三十

仇討 天貞東洋繪実記 卷之拾壹



目録



一 倉光小次郎 御所の事
并 推本原とて 望城と教は事

大正十年八月廿九日
本大學出版部

仇討天貞東海繪實記卷之拾壹

倉光小次郎龍侯の事

兼兼榎本系榎本系とてとて盜賊盜賊を教教はす事

かゝるしかゝるしららららととららふふ村村ののよよののどどももひひる
やま体体ををああてて田田細細よりよりののどどりりととららう
このししげげ店店ををままええよりよりししじじぶぶららちち死死
きききててたたののくく家家路路よりよりううりりららる

か小次師せうじしがやうやう一居いらるるををててにに
あやあやらるるハこのこのさびさびの侍侍ハハいい
くくやらんやらん今いま給たまふりりけけなな
りりてりりてああららままのの事ことぞぞやや
ららるるちちここひひゆゆききははままらら
よよてていいままははこころろああづづききいいららもも
下しも館ゐまでまでゆゆききんんとといいままをを
追おううけけははららひひままりりたたここししててままりり

後あと人びとももちちややままりりたたままににままりり
ととああららるるままはは小せう次じ師しああつつとと目めをを
ささららるるままはは夜やああのの夢むみみにに
ああららるるままははああららるるままははああららるるまま
ままははああららるるままははああららるるままははああららるるまま
ああららるるままははああららるるままははああららるるままははああららるるまま
ああららるるままははああららるるままははああららるるままははああららるるまま
ああららるるままははああららるるままははああららるるままははああららるるまま
ああららるるままははああららるるままははああららるるままははああららるるまま

してさちどー まろ豆めー
たぬされと煮うーりさうして
ちう食とちうさちこれより
下飯までいあどもあうまのどあ
く出さういさびどーさー
うぞ亭をいあもとききて下飯まで
ハよあどの屋ありだんざん
そぎくゆりど目のうちまハあ海つら

あーといふ現物で中次節中らハ
ンやこれよりハこづうき重余ゆえ
んといふとていもハあまきあこら
是より下飯までいあうくはゆり
て十二三里ゆえん新音より新登
えのちうちちりり下飯ハあか
るあされ候ハあああ江戸まで
ハあかーえり海ハゆえんそれより

山代官原村役人とはははききされ
山見はほろりゆそむー海子たご
ソの殿様は苗門極くして山
遊ああうくもんるるものふ家田の
くーあようして山後や山系と下
され山はくひゆそむーりもく私
とーのよああるあうきものまごも
まきーまきーあく海世くー

山見はほろりゆそむー海子たご
ソの殿様は苗門極くして山
遊ああうくもんるるものふ家田の
くーあようして山後や山系と下
され山はくひゆそむーりもく私
とーのよああるあうきものまごも
まきーまきーあく海世くー

あま〜河ればまら山やまちさあま
くつど水戸みづの祿ろく少せう順じゆんあ〜用よう心しん
ぶ〜りらら委い〜くた〜く〜
まがま私し〜ま〜あ〜見みくく小こ
山やまのあ〜ととたたり〜十二じふに丁ていももああとと
りら〜ををせせ〜地ち氣きの〜ああちち〜ああまま
りりそれよりたたり〜坂さかををあありり〜
ああせせ〜ももびび〜かか〜ななねね〜いいまま〜

あま山やま屋や〜ととままああららよよ山やま〜まま〜
ああのの板いたををやや〜あありりそれと〜はは里り
ああ通とほりりぬぬ〜ああ〜がが雲うみのの東あづまののええ
ははもも〜ああ〜ああ〜百ひゃく姓せい〜
ああれれババ〜ああ〜もも祿ろくののははひひ〜ああ〜
まま〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜
ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜ああ〜
りり推い本ほん系けいのの同どうががはは里り〜ああ〜りり

よそ 福徳主 繩なは手てふふソソつつてて二三里りい
らんとおらしし一一らら十次じ節せつききををままて
ささつつくくととおおららくくああららくくががささららくく
だだららちちととささんんととままええののととささりりああららじじ
けけほほややととななちち出でししふふ夜や分ぶん山やま河がはの
ここののちちりりああくくままりりたたれれがが流ながのの舟ふねふ
りりししととささんんととままりりててままるる地ちののふ
ああれれががああららくくののままららづづははととああららくくととああららくく

ままででいいままももししゆゆぎぎりりししがが後あとののててらら
度どととささのの飢うええややししああいい悪あく國くにの
ままららりりししととああららくくああららくくををままててらら
トトああららくくちちりりががささららににああららくく旅たび人ひとの
通とほりりああららくくああららくく人ひとををままててらら
ああららくく物もの様さまののああららくくままののままにに吹ふくく
風かぜははれれととづづれれててああららくくととままりりややらら
たたららりりああららくく十次じ節せつききををままててらら

ひるがらりーがわくそあろくま事あ
ねがはの海り坂とわり物とを関
宿まで目のあろくちよあろくやと
其のこゝろとちのびあまもあく
何あじよあく山麓まどりの板
をやーとよよーとよよーと
しんぞくちあろく海金の何ろくがね
しんぞくちあろく何ろく
よろどあく境をたちよあけり
つきはれはあろくそあろくや
らひ時とろあろくせろくあろん
そあろひろろしんぞく又別し
宿へあろんそねのひはれが中
まろがりけろくよあろく
ーひろきまちのわりろくと
とあろーとねのひがーた

のかしこ二三里をせらるあどあし
かしこよ遠こび実宿のこしこ
東のをたまのかしこはきくろふ目
をや西よ入てたそがれごらありら
れくの百姓をくろくぬともち
くがごあど脊たてけこし
とこころていありれが中次第は
ひこひこのものごよは後らんことを

をひれが松長のこひ多いあれいま
ここのこしこふゆび旅人のこし
後いハあれより十余丁あり
端さうの侍の事あれが海に事
あどびともろふ中次第はこし
こしこして我き人の事あり目も
をやくれふれよび十余下のう
出りゆてハ端の舟船ありあふ

とぞまこと一斗の酒を出さんま
酒したるこれとこびらるるを
この酒手やゆん一さりらん
らば百洞の舟ちんおん
中ららるるが中次帝是を
をありさりなりなり
まこと一の酒手もて酒したる
百文より肉までハ酒は事交
てあぶるさまがた一くバ上の酒
しくが多まるとまごま漕がさん
とせし中次帝もせんうへあ
あうらばそのあうのれごこの通
りみもるるん
一はつひやうと懐中一
百文よりが一りらるるを

移セびズこれと交まりけちるはバババと
まよまてあひさししを向むふの道
こぞつとくちろろ小次せ師しをうらむ
らぐう二丁ぢの水みづ上うへを渡わたる百ひゃく文ぶん也なり
て口くちよりくちこそ是こゝ能ひあままししや
こせなりさすそまましし実ま宿しゆく
よ一いっ宿しゆくきんと旅りょ電でん屋やへかかりて
やどともしもんれどもひき人ひと旅りょ宿しゆく

あぶざらふししもてむああくくゆゆま
ぎららよとや目めししくれ申まをの別わかるるよ
ていいなりららららら本ほん松しょう推すい本ほん京きやう茶ちや
ららししどどびび足あしののこことと凌しのぎぎて
ソソそそぎぎららららららや夜よも初はつ文ぶんのの氏うぢ
よああびびらららららら酒さけやとああししのの屋や
ごらああままババののままや六む七しち里りもも来きまます
んんととねねののひひて雲うののははままああららしし

の初^{ごと}のぞくまごどかよよらう事^しは
ゆの事^しあうづー^し傳^{つた}くゆふ^{ゆふ}初^{ごと}
公^き大^{だい}塔^{たつ}が^がらあは^は逃^にれと^とされや
あよ^あか^かく^くま^まあ^あく^くま
神^{しん}君^{くん}ハ^ハ初^{ごと}の^の板^{いた}子^この^の下^{した}は^は山^{さん}身^みと
の^のび^びま^まー^ーま^ませ^せー^ーか^かく^くー^ーし^しん^んど
る^るま^ま大^{だい}将^{しょう}は^はら^らは^は雅^{みやび}美^び期^きハ^ハせん
く^くー^ーあ^あー^ーと^とらん^{らん}や^やこ^これ^れら^らふ^ふれ^れひ^ひて

あ^あや^やは^はま^まー^ーむ^むら^らり^りの^のい^いこ^こと^とこ^こら
し^しか^かの^のー^ーハ^ハこ^これ^れあ^あづ^づは^は真^{まこと}の^のあ^あら
ま^まひ^ひん^んで^でー^ーは^はま^まを^をか^かは^はか^かづ^づえ
い^いん^んー^ーい^いん^んと^とい^いて^てさ^さち
何^{なに}が^がり^り目^めが^がん^んも^もあ^あら^らぬ^ぬや^やま^まの^の夜^よを
ま^まま^ま道^{みち}る^るら^らと^とい^いつ^つを^をと^とら^らる^るづ^づと^と石^{いし}款^{かん}
も^もし^しま^まま^まー^ーい^いつ^つも^もこ^こら^らる^るが^がも^もし^しと^とい^いり
大^{だい}丈^{ざう}丈^{ざう}の^の仕^し士^しと^とな^なれ^れが^が事^{こと}も

せびしそんそぎぶくろふあどどく
酒さけをやかたしーい権いんもき系けいとすん
ふいちいろいかあ並な来きししろいははぎまきて
くくまき事しハいしよむらりあく野
のむらりもろくぞれが湍たふ足あさしも
ちぞろろししていぎさハやまひたりハあらまい
谷やちいて水の流のもろろふまきこし
ちちとドログう又六間をらりと

ああぶあればやまの夜の事あらふ谷
ハやあちんととろろろろろ一筋をらりと
としよと知らぶよ一里をらりもこらぶ
うよらめこらふそろろむよふ火の
ひりのあはらうふこらいらる中夜
席はし終とびもや人里へらららる
らんし中所老りをたよりり
ちちとしそぎ一時もやくらら

ういのやぶしもけんよのこもちの
はうれししこもぐん痛とらしてき
てしそぎさち次身は火の光り
づきなれがよりし是とそれごと
のをしそなたき火のひかりそ
ゆりくれがたよやしこらふ
ちうくあちまのよまことさか
そそゆれがに三人の人うげそ
ちののこころみ居て火よら
ていありなれが小次師はそれ
見えてこそまそまがよびくもあ
盗賊の旅人ともあちゆも
せよこもしそのみ体まんとかの
あき火はちうはきこもが中山の
しそく大男には人そそ火を焚
ゆり居しあり小次師か

らがそむるはまていしよハ旅人あり
何しとくしをていしちをかやう
細美なるものあり大とて
そんいも一たしとやうなる
ま人の者やはま事ありといふ
あがら火のいもさし一紙小次郎
か西へさし解られが小次郎ハ
そのまきませるおしてまきをを

まははけちちとあり一もまはま
しのうちその外ををるはちし
とに人あびび一ま申よつらと
座一たま火はまねさし一
てあたりたりをに人のものども
よし一いふその申よかしら
とあし一さしりのいしよ山
し一あら大がうげとて二人

むくりの刀と帯一廣袖の布子
と帯一ちし移をかきよてその
よは度一居しり流り一
ものハいかちんてんのひくもの
ごまくと身ははらむむしうを
あつあどしてソグまも大服
しを帯して火よりしり居ル
れバ少次帝一これをよくくんとて

かまてうハまがよどくもちき山城あり
百一それとちがんとせがえくの刀腰
ありかまてうごまのみの何十人
りりともあそあハはてさこれ
何とぞあゆしてありさも何一の
いそのさかかき夜のちくら
まではあはりてわけあをさく
くちちとちがく福助あかん

ののこ小次帝き人のののよとひ
くらハこれより下鍛^{たが}や近^{ちか}きら
ま^まく物^{もの}壁^{かべ}ハあふあどつらやと
とみ^{とみ}くらふよ^よ上^{かみ}座^ざの坊^{ぼく}をこころ
よ^よ侍^{しやく}ふらづ^づこ^こより^{より}西^{せい}こ^こなる
や^やけ^け西^{せい}を^を夜^よと^とち^ちの^の旅^り不^ふ欲^{よく}あら
人^{ひと}らと^と中^{ちゆう}と^とぞ^ぞ小^{せう}次^じ帝^{てい}中^{ちゆう}に^には^はは^はは
ハ^ハ相^{さう}州^{しゆう}の^のの^のあ^あら^らが^がま^まあ^あら^ら用^{よう}事^じ
け^けと^とて^て江^え戸^とへ^へあ^あら^らあり^りし^しと^とぞ^ぞの^の旅^り
か^かハ^ハ夜^やと^とわ^わら^らい^いだ^だそれ^{それ}也^也こ^こ
ち^ちよ^よま^まよ^よみ^み大^{だい}な^なひ^ひぬ^ぬと^とり^りこ^こり^りと
着^きく^くら^らふ^ふの^の坊^{ぼく}を^をか^から^らく^く日^ひれ^れハ
この^{この}山^{さん}中^{ちゆう}の^の者^{もの}あ^あら^らが^がか^かん^ん屋^やふ^ふあ^あて
旅^り人^{にん}の^の金^{きん}浪^{なみ}と^とこ^こら^らの^のと^とは^はら^ら
高^{たか}貴^きあり^り西^{せい}侍^{しやく}よ^よも^もち^ち合^あひ^ひを^を
の^の金^{きん}子^すら^らば^ばあ^あれ^れハ^ハお^おこ^こら^らへ^へ

おし金浪かあくば大小のちるん
衣歌ほくこやでききーどー下
飯へありさも福うぐーありとも
侍手次郎よゆふーゆきと侍若
吾人のゆきさふゆふ小次郎丈よ
りふひちーさそこそそ目利よ
遠さーとたのひきまばんや何と
りささろぞ己れ浪人の事あれ
を持合の金子そそハき後となき
さそそのあうぞーもろんが屋い
衣るハハのーぞそそあうおかけ
のよのーゆきばさふりてなく人
もゆふんあれぞもろん知を極
知のていあれがこのあうゆり
あふんしーゆきぢやまふがう夜
まがゆき火の跳きふあうり

争しと大いん石^い敷^てふいひとあせ
バササてぶのがうぎじしけ返^{かへ}言^{こと}ふあ
まれや—けん一^{いち}云^{こと}の返^{かへ}事^{こと}も
なぐこまものどし—い^いふ^ふふ^ふふ
ハくられバたき^た火^びとあ^あさ^さなる
—^た侍^{ざむらい}と^とめ^めと^とあ^あま^まと^とべ^べ—くら
く—^くて^てもの、^{もの}や^やの^のこ^こら^らぬ^ぬが^が折^お
角^{かく}の^の料理^りを^を仕^し換^かげ^げぶ^ぶま^まの^のま^ま
う^うぎ^ぎと^とあ^あく^くた^たら^らふ^ふ焚^く火^か—[—]て^て侍^{ざむらい}と
う^うて^て—[—]と^とあ^あま^まと^とあ^あま^ま—[—]ま^まの^の
よ^よん^んふ^ふ折^おれ^れが^がと^とあ^あま^まと^とあ^あま^まと^とあ^あま^ま
う^うぐ^ぐり^りか^かこ^こら^らの^の山^{やま}の^の端^{はた}が^がり^りね^ね
く^くの^のう^うれ^れも^もと^とも^もち^ちき^きこ^こら^らか^かべ^べり
の^のど^どく^くた^たま^まく^くう^うげ^げれ^れが^がま^まと^とあ^あま^ま
白^{しろ}き^き事^{こと}あ^あま^まと^とあ^あま^まと^とあ^あま^ま
さ^さも^もう^うち^ちこ^こら^らは^はて^てま^まと^とあ^あま^まと^とあ^あま^ま

て何り^がらふ^がの^が場^がを^がい^がひ^がる^がと
夜^よも^もれ^れし^し付^つけ^ける^るし^し侍^{さむらひ}よ
それ^{それ}科^か理^りを^をせ^せよ^よと^とや^やら^らり
二人^{二人}の^のま^まの^のか^かし^しと^と毎^毎り^りゆ^ゆと^とし^し
ま^まく^く一^一度^どり^りど^どろ^ろと^とま^まり^りが^がま^まば^ば小
次^小帝^帝も^も身^みが^がま^まり^りと^とま^まり^りあ^あら^らん
と^とま^まり^り妙^{まう}と^と侍^{さむらひ}ま^まり^りと^とし^しま^まり^り
左^さ右^{みぎ}より^{より}ま^まり^りれ^れが^が小^小次^次帝^帝と^とま^まり^り
へ^への^のま^まら^ら推^{おし}進^{すす}あり^りと^とし^しま^まり^り
ま^まり^りと^とま^まり^りへ^へあ^あげ^げし^しる^る身^み
か^かま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^り
ま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^り
り^りや^やあ^あと^と小^小次^次帝^帝の^のま^まり^りと^とま^まり^り
て^てろ^ろと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^り
で^でろ^ろと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^りと^とま^まり^り

トはまづ一 沸たぎみかれらぐ南みなみのさし
侍しやくしもさしはがなれがあげとあくれ
もあらぬまゝよーまげまゝ
あがーませーまづあそびく
つぎは多くは焚たき火びとよー^{あそ}と
ひら^{ひら}のさしー^{せう}て侍しやくしをいささん
とあそもたまき火びとさーくづる
よ小次せうじ帝ていもあそびくしきつぎ
りよかゝら時とき帝ていあれが存ぞんりた
がひのさしーちゆーゆゑてよ
ありてああらせんしーまま度ど
りされよそきせらねらるる春の
んくさるると大おほ坊ぼうをハぬくし
んくーがさしとああげと切きり付つけ
とさるーとさりと小次せうじ帝ていハ稻妻いなづま
のさしとああさしとさるーと

仇討天貞東錦繪實記巻之指武

倉光小次郎くらこうこ 室宿旅宿むろやぐりの事

并初巻渾身あはてと合あは子こと茶集ちあむ小事

愛あいふ十次じゆ節ふしハハちちららららとと山さん城じやうおお合あ生せい涯げいののももふふららききししててはは人ひとののよよ手てよよ切きりりののああららががののああししののああららびび勢せい火かののああららびびなりなりねねののああららびびゆゆありありと

おとよ一夜のあはれなるあはれや
ありはらうが目もこやちがう一あまふ
りまのちいらせいのちのうへよあまふ
ちひの肝とはがう一あまふ一あまふ
かあよあまふ一あまふ人の死骸のわり
はあまふ人の見とがらあまふちと谷川
のぬるまあまふ一あまふ一あまふ
して推本あまふおんとせし一あまふ
よそのあまふはうもこしてあまふ
ちまこ一あまふ一あまふ一あまふ
ありはれぬあまふのあまふ一あまふ
のちのあまふがあまふのあまふ一あまふ
あまふ一あまふあまふあまふ一あまふ
まあまふあまふあまふあまふあまふ
のあまふあまふあまふあまふあまふ
あまふあまふあまふあまふあまふ
あまふあまふあまふあまふあまふ

しんぎち
しんぎちまで集るのあれをけるあり
されあゆむり何ぞをさるるべし
と命じらよしとらりれはしんぎち
かよるるびさるくあきけあうき
わがしあかきうらぶあせよま
うせ実宿へまげり養生か
出えまじりしあうらるる
かしんぎちせんはお名もあ
しんぎちとりらふ馬士ハしんぎち
しんぎち馬士のせんはあうら
しんぎちのせんありとて実宿さ
てしんぎちらるるあうき実宿り
しんぎちらよむまじりありて集やま
しんぎちらりれしんぎち
うらあはまじりせんあうら
あしんぎちのせんありとて実宿り

—てちん漢をお—られさしそり
さちちいふ小次席馬士がそちち
とぐんとあもさびあが—て礼よ
おましましうさ—てあ縁もゆり
ふあく少礼—さんとあふ名残
をとお—とああ—そちちあはれバ
わん席—ああ—のああ—ああ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
はありらあ—あ—あ—あ—あ—あ—
お—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
く—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
少次席が—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—
—あ—あ—あ—あ—あ—あ—あ—

いふもあれがさうそくにいふこと
はりりらあへくはらに一あ日運るさ
して存の幸至に礼謝—この
存をめて夜福にのりて江戸へかん
とせ—にまゝ人の事あれが福にも
のせむせんかてななくまてく
権の末系あにかくりは里ハ一の健
ふはくも福樂へかんといふこと

いふものいふさういふのいふもさ
とせむりりれがあてせむりて
やせむりらあが雲あゆのあゆり
はあにありあるあてあありの
商人中た師が足一のいふこと
のぞくにねあひらるはや何うど
いふらりもまや福へまて
めさ里にあてさるもいふあれを

くちがくにのちとちとれく
そともあく^{いぢ}はげまにあらそそま
しこれが小次師もよそいそちづま
ありとれゆひ^{わんごう}きんじにものかたり
しそそまはハ^{あに}高人^{たかじん}にやま
多^たづ^づの^のに^に被^ひの^のか^かい^いく^く礼^れ
中^{ちゆう}同^{どう}お^おら^らま^まの^のい^いく^くし^しゆ^ゆま^まく
おの^{おの}新^{しん}入^{にゅう}あ^あて^て賣^うり^りの^のま^まい^いら^らが^がの
お^おま^まき^きれ^れの^のが^がれ^れり^りあ^あし^しは^は江^え戸^ど
あ^あて^て仕^し入^{にゅう}し^しゆ^ゆに^にま^まて^て高^{たか}
し^しゆ^ゆの^のま^まの^の月^{げつ}ハ^ハま^まま^まに^にま^ま
り^りわ^わく^くの^のま^まの^の代^{だい}の^の
あ^あら^らま^まの^のま^まは^はな^なハ^ハ江^え戸^どあ^あて
仕^し入^{にゅう}し^しゆ^ゆの^のま^まに^にゆ^ゆと^とか^かり
は^はれ^れが^が小^{せう}次^じ師^しこれ^{これ}を^をま^まて^てま^まれ^れ
も^も江^え戸^どあ^あら^らま^まの^のま^まれ^れま^まと^とま^ま

先てあれが... くらんあひを。
きろぐやとかの商人にむかひは
らふ羽州のものにてあつて
月事とる... 江戸へ
集るるり衣をドめての事あれ
が江戸の極子一わりにぞんせん山
の... 知る人も
あつたこれといふ... や
とでもな... 江戸へあつ
ようしてとらんやとか... 江戸
かの商人... 江戸
横山所といふ所に官舎ありて
それくま... 江戸
の... 江戸
... 江戸
... 江戸

うたのしとたのひはるがけわきんご商人江戸
へ買かひがーとくよあそむにやとやく
ふたとりささりてかれがまじ中
にきんす金子のつるぐーのぞ目めはあひあ葉
へしゅう洲とつてあぶくくかれとき葉
ぞぐさせくま中のきんす金子とくまひ
ぶぶさーわさりさるき飢う錫とああ
まま身まはあぶあぶ一倍い一とあ

きんものところらにうなづき小次
席わきんご商人にらふさそそのあう
はららららののののるるやとあづ
糸いとををれれがが糸いと事ことハハままるるととくくあああ
ののののあまづらまも水戸みづと街まち道みち
よりよりり江えどどくく居いるるああれれままももこのこのの下した籠かご
のの屋やにに用もちひひててこのこのの屋やままと
にかつらとつりつとと活かりりららにに水み戸と席せき

にともや福登へハ已づるまに
あどるありけれバ少流岸ハまに
商人とよぶけりもともや福登に
もつらやト多のあ珍一づの
いんやと海あろ大折さり
りろが青に中り
水にひさりて一向のうつ
りまが商人是を
あつちりにこそあ
より大折さり
てちをうちなる
あひひやろ一
かたりのち
て何そなるにぞ
かかには
何をれむ
彼

あつちりにこそあ
より大折さり
てちをうちなる
あひひやろ一
かたりのち
て何そなるにぞ
かかには
何をれむ
彼

しめていそぎゆるし布のそのま
くさの中へいそぎ入るがしる
に紋布に入すこる金子のあよそ
七ひすあものとそんぐれがさるも
をやくるの申しきせしり
し商人とりりの海田へ物も天れ
りそこのなるものとおしりそぎ
し物登ましりそ一とんにやと

しそんぐしりそりゆるにそぎ
あく一里にそぎゆるちりり
物登まゆにそるれども宿さひる
にけあらん兼の道申るれが人
そんぐとそんぐゆにがり
合るるあどしそ金の金子とま
に百あはははそりそるれ
どしりるにそぎ久しがりほそ

のた、めんふとむとりあき——
町きもあちのふま百の里を奈
いふいふきあきとむきあき
あては戸とさしていそぎ、なちが
せんの家にくりあひいそや
七の時にもあふんとはらあにそえ
女めて止宿——とあちを
に山を歩いふとむとあきに入りのあき

江戸入るればけあにてもあせんと
そとぎやの遊女あどものあて
活汁——百仕のちあきとよんでいそ
——洞和もあきがあきあきせん
とあきこりあきのあきあきせん
あきあきそのあきあきせん
その月あき十初にあきあきせん
その夜もあきあきせん——夜あき

既福もくもくきりてもありしや
ハ皆んと十方にくまむのんの後
に志をくくくまむばみくありなるは
そのハ水戸の城下軒所ニ下目角屋
又まき自代燈助とくふりのにて
同玉篋子の所に住居くくく名の
角屋又まきお屋にて小間お高屋
くくく代お仕入くくくはつきい合る所

持して江戸表へまきお途中にて
合子くくくく事也江戸
表へお成は是より江戸
内城下へまき入りお屋へ存の江戸と
お徳りお及所へお海に及ばれ

仇討天貞東錦繪實記巻之拾貳終



